

清浄歡喜団の由来

略してお団と言い、遠く奈良時代遣唐使により我国に伝えられた唐菓子の一種で、千年の歴史を昔の姿そのまま、今なお保存されているものの一つであります。

唐菓子とは「からくだもの」と呼ばれ、仏教と共に我国へ伝わり、天台宗、真言宗などの、密教のお供えもので、当時は、とても一般庶民は口にすることは出来ず、貴族のみに与えられたものであります。

七種の香を入れて包み、そのほのかな神秘的な香は仏教で言う「清め」の意であり、八つの結びは八葉の蓮華をあらわし、形は金袋になぞらえ、たぎった上質の胡麻油で、揚げてあります。(何年たっても決して腐ることはありません)

伝来の当時は中身は栗、柿、あんず等の木の実を、かんぞう、あまづら等の薬草で、味つけしたらしく、小豆餡(あづきあん)を用いるようになったのは徳川中期の後であります。

弊店はその秘法を比叡山の阿闍梨(あじやり)より習ったと伝えられ、月の一日、十五日を中心に調製します。勿論精進潔斎の上調進することは昔も今も変わりはありません。

お召し上がりの際、もう一度軽く焼かれますと一段と香味がございます。(又は、器に入れて熱湯を注ぐと柔らかくなり御汁となります)

創業元和三年(一六一七年)

京祇園石段下南

京御菓子司 亀屋清永 棗より